



2026年6月25日
第227号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

イーハトーブ

6月25日号

アメリカ・イランの戦争から100日が経過した。各地で紛争・緊張状態がやまぬ中、日本の物価も上昇の二途をたどっている。

現状を見てふと思うことがある。今の景気概況は悪化していると。戦争・紛争を起こす国は、えてして表面上の景気状況を取り繕い、国民にはもっともらしい理由をつけて戦争へ邁進するという流れは第二次世界大戦のときと酷似している。

第二次世界大戦時はドイツにヒトラーという独裁者がいたが、そのドイツは第一次世界大戦後の負債によって景気が悪化し、国民の選挙によってナチスを伸長させてしまったのだ。自国民が一番というある意味当たり前の思考なのだが、その裏には移民等の差別などを助長するような政策をとり、移民の尊厳を踏みしめる行動に出たという歴史の記録が残っている。

日本でも日本人ファーストを主張する政党が躍進するなど、国民の貧富の差を使った綺麗ごとを並べる傾向が日に日に強まっている。確かに移民側にも日本の文化を尊重できない移民も増えている。彼らはそこを主張することによって憎悪を植え付け国民の分断を図っているのである。それで割を食うのは国民であり労働者である。

独裁者の誕生というのは常に国民・労働者がかかわっている。独裁者に右も左もない。左にだって過去にはソ連のヨシフ・スターリンや中国の毛沢東、近代では習金平などがいるからだ。それこそ企業経営者にだって居る。誰しも表面上では独裁者の誕生を喜ぶことはない。だが、各個人の潜在意識の中で自身の行動により独裁者を生み、戦争への道を進むことを個人が戒め律する行動をとらなければならない。

今の世の中、必要なことは弱者や労働者の立場に立脚する思考ができる国民が必要である。自分自身の意見が色んな場面で公表できるようになったからこそ、自分の中の視点を見つめなおし行動しようと思う。

Y.O

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行います。